

【第三種郵便物認可】

車の技術基準 東南アに

国交省提案、EUに対抗

国土交通省は自動車の安全や環境に関する日本の技術基準を東南アジア各国に広める。基準を策定する委員会をまず5日にフィリピン、今夏にはベトナムで立ち上げる。国交省は日本に近い基準の採用を東南アジア各国に促し、参入障壁を減らすことで日本の自動車メーカーの輸出や進出を後押しする。自動車の国際基準づくりを主導する欧州連合(EU)に対抗す

る狙いもある。国交省や自動車メーカーでつくる自動車基準認証国際化研究センター(JASIRC)がフィリピンに5人程度の専門家を2年間派遣する。基準策定や認証制度の導入を助言する。国際基準の導入を促すだけでなく、日本とEUで意見が分かれる一部の基準では、日本方式の採用を提案する。政府が基準づくりを支援するのは、東南アジア

諸国連合(ASEAN)が2015年にも域内の統一基準を策定するためだ。これが日本の基準と大きく異なれば、成長市

場で日本のメーカーが競争条件で不利になりかねない。インドネシア自動車製造業者協会によると、同国の自動車販売台数は12年に約110万台と前年比で25%増えた。フィリピンやマレーシアも伸びている。これまで国際基準づくりを主導してきたEUに対抗する狙いもある。国際基準を議論する国連の専門組織では欧州諸国の影響力が強く、日本は不利な状況にある。ただ、市場拡大が見込める東南アジアが日本方式の採用に動けば、欧州もアジアの動向を無視できず、日本の意向を反映しやすくなる。